

英彦の泉

聖母の騎士学園
同窓会会報

☎850-0012

長崎市本河内2-2-2

TEL095-823-4523

FAX095-823-4759

- 第23号 -

伝える キリスト教関連遺産

同窓会会長
赤本喜代次



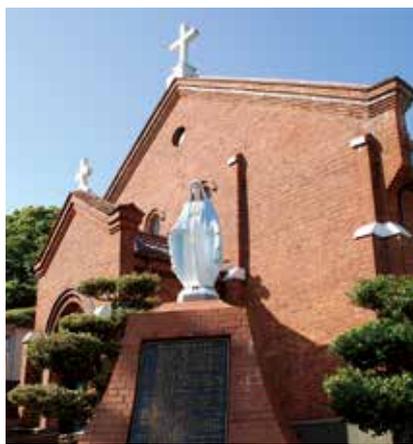
長崎市外海町の海岸線 (撮影 Br. 松下昭征)

皆様お元気でしょうか。長崎と天草の関連遺産のうち、今回は外海・出津集落へ行って参りましたので、少し案内してみようと思います。長崎市北部にある我が家から車で30分ほどで行ける「黒崎永田湿地自然公園」でまずは休憩。その少し向こうにはレンガ造りの美しい黒崎教会があります。私の出身地、五島の堂崎教会によく似ていま

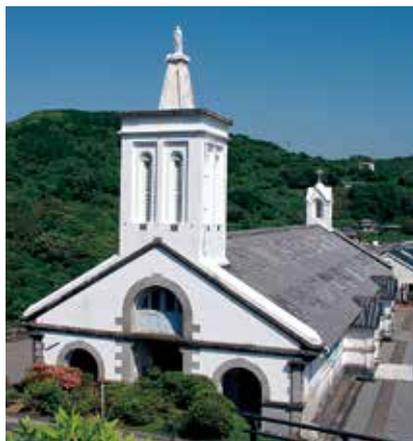
す。そこから一山超えると、外海・出津が一望できる「夕陽が丘外海」があり、そのすぐ下には、「遠藤周作文学館」があります。あの「沈黙」の舞台である場所にこの文学館を建立したそうで、資料が沢山あり、訪れる価値は十分あると思います。眼下に、外海・出津の景色を一望できますし、丘を下ると、「外海民俗資料歴史民俗

資料館」、その奥には出津教会があります。この教会は、強い風に耐えられるように、通常の教会と比べると背丈が低く作られています。ド・ロ神父様の設計の立派な教会です。この周辺は、世界遺産登録後は観光客が増えているようですが、まる一日を費やしても回り切れないほどの文化遺産があり、一度は訪れる価値は十分あると思います。

11月には法皇様が来崎されることになっていきます。今の時点では教皇庁の発表がなく主催は不明ですが、もしも長崎でミサ司式があるようであれば、同窓生も参加できるようにと考え、今年の総会は、その日程に合わせる事になりました。皆さんをお待ちしております。



カトリック黒崎教会



カトリック出津教会

外海・出津地域についてももう少し。この地域からは数多くの聖職者を輩出しています。私の出身地、五島の堂崎教会の松下神父様もそうです。この神父様、親が亡くなられた時も帰省しなかったそうです。その理由は、「自分は、この世を捨てて、神様に仕えているから」です。子どもの時の、侍者をしていたころの神父様の姿を思い出します。



ローマ教皇フランシスコ (wikipedia)

ます。五島での名物神父様でした。さて、この地域の出身者で身近な同窓生と言えば、松下修道士と、前会長の大石諭君です。飲み会では、五島出身者の故郷は外目周辺だと話をしていました。言葉・イントネーションが同じです。不思議ですね。これからの遺跡巡り。まずは、天草の海辺に建っている「崎津教会」に行ってみようと思っております。それから先は未定ですが、先祖が伝えてくれた貴重な信仰を心に感じ、そして留め、後世に伝えていく事も一つの使命であると思います。

伝える



聖母の騎士高等学校校長
同窓会顧問 崎濱宏美



今回「伝える」というテーマで書いてください。と依頼され、最初に「私
が知っている五島の自然を利用したオ
モチャ造りなどについて書こう」と考
えた。しかし、そんなことには神父が
関わらなくても……と止めることにし
た。ナイフなどがなくても素手だけで
作れる様々な木の葉っぱを利用した風
車やカラスノエンドウのピーパー笛、
簡単に作れる髓の木の笛など、今でも
子どもたちがとても喜んで遊べるオモ
チャとなっている。プラスチック製の
おもちゃにあふれた今日こそ、自然の
オモチャは意味があると言えよう。

聖母の騎士学園赴任を任命されて29
年目に入った。その年、つまり平成3
年の高校1年生が子どもたちの数が
ピークになった年だった。それから毎
年減少は続き、今では当時の約半数の
子どもたちの数になった。民主党の政
権になって「公立高校生の無償化」が
すんなり決まって実施されたため、経
費が高い私学への希望者は当然と言え
るが少なくなくなってしまった。本学園も
いつまで存続できるのか何の保証もな
く、心が休まる日はない。



本河内ルルドへ向かう途中(第4の玄義レリーフ)

子どもたちの数は約半数になった
が、長崎のカトリック信徒の子どもた
ちは多かった時に比べ10分の1ぐらい
に減ってしまったのではないかと考え
ている。統計を取ったわけではない
が、あちこちの教会にミサの手伝いや
黙想会の指導などに行った折や、儀式
などに参列している様子を見て感じて
いることである。長崎だけでなく日本
全体のカトリック教会がそうかもしれ
ない。はっきり言えば、現在の日本で
はカトリック教会は危機に直面してい
ると心配している。聖なる殉教者たち
の流した鮮血を種として、世界に注目
されていた日本が、やがて多くの教会
で維持存続問題が起きてくるものと考
えられる。長崎の教会は、永い迫害か

ら解放された先祖たちの力強い信仰の
証でもあったはずであるが……。

このところのカトリック信徒の教会
離れの原因は、オーム真理教やご利益
目的の宗教が乱立して、多くの人たち
が「宗教」そのものに疑問を持つてい
ることなどに影響を受けているともい
えよう。また、多くの信徒たちが、自
由社会に慣れすぎて、信仰を生きるこ
との価値を見失っているともいえる。
また、知らず知らずのうちに社会的な
裕福で安楽な生活を優先するような価
値観に毒されてしまっているからかも
知れない。

こういう時代にあつて、「聖母の騎
士」を母校とする私たちには、後世に
伝えるべき大切な使命があると考えて
いる。創立者聖コルベの身代わりの愛
を伝えることはもちろんであるが、何
といつても、それは長崎の信徒や先祖
たちが、命懸けで守り繋いできたカト

リック信仰を伝えることである。
「人がこの世にいるのは何の為であ
りますか。人がこの世にいるのは、天
主を認め愛し、これに任せ、ついに天
国の幸福を得るためであります。」

「人にもっとも必要なものは何であ
りますか。人にもっとも必要なものは
宗教であります。」

「宗教とは何でありますか。宗教と
は天主に対する人の道であります。」

小学校1年生から習い始めた「公教
要理」の教えには、簡潔なカトリック
の教えの内容が示されていたと思う。
意味もよく分からないまま覚えたもの
もあつたが、70年過ぎた今でも無意識
に口に出るものもある。

文明社会が進歩し、各種情報があふ
れ、生活様式が多様になろうとも、素
朴な「長崎の信仰」を守り伝えていく
ことが聖母の騎士で学んだことのある
方々の最大の使命であると信じている。

学園劇

第16回 定期公演

コルベ神父生誕125周年記念

キリスト受難劇

「ゴルゴタの丘」



令和元年11月12日(火)

会場 長崎チトセピアホール

開演 18:30 (17:30~開場)

入場料 1,000円

※前売り券、当日券とも同料金です。

問い合わせは【聖母の騎士高等学校】

☎095-823-4523まで。



今年度本校には、三つの同好会が誕生しました。文化部として「古典研究同好会」「デザイン同好会」、そして運動部の「総合スポーツ同好会」です。耳慣れない言葉だと思えますが、これは団体競技を行うことが難しい本校で、バスケットボールやバレーボールなど、様々な競技に取り組もうという同好会です。4月にできた同好会ですので、今回はバドミントン部と一緒に練習し、高総体に出場しました。

バドミントン競技は、これまで2年生だけだった部に1年生が9名入部し、更に活気が出てきました。今回は惜しくも初戦突破はなりませんでした。今後の活動が大変楽しみます。

また、この他にも個人で練習をしているライフル射撃に2年生が出場しました。こちらも初戦突破はなりませんでしたが、昨年の成績を上回る自己ベストを記録し、最後になる来年の高総体にはリベンジをと、期待が高まっています。

このように、それぞれが積極的な活動をしている中で、部活動をしていない生徒も学校全体で盛り上げようと、開会式には全員で行進を行いました。暑い中練習を続けた甲斐もあり、全員で団結した行進を行うことができました。

放課後、体育館から気合いの入った掛け声が聞こえるようになり、学校全体にも活気が出てきたように感じます。来年には更に良いご報告が出来るよう、一丸となって頑張りたいと思いますので、今後もみなさまのご声援をお願いいたします。



第15回ナイツフェスティバル開催

今回で15回目の開催となった「ナイツフェスティバル」。毎回たくさんの皆様にご協力をいただきながら運営してきましたが、今回は生徒それぞれが自分の枠に留まらず、様々なことにチャレンジする機会にしたいとテーマを「挑む」にしました。

1年生が挑んだのは、企画製作すべてを自分たちで行った動画制作。2年生は会場が一体となって楽しめる〇×クイズ。3年生は受験の合間を縫っ

て、ステージ背景に大きな「挑む」の文字を描きました。

また、普段できないことにも挑む機会にしようと、長崎大学から「はもねぴあ」のライブ、に長崎総合科学大学の「ロボコン部」によるロボットの「ロボコン部」によるロボットの体験、長崎市世界遺産推進室から「長崎の世界遺産についての講演」など、盛りだくさんの一日となりました。

毎回好評の食堂は、ミサに來られた方もお寄り下さり、完売。育友会はバ



ザーの他にも、話題のハーバリウム教室にも挑戦しました。

大規模校には人数の上で敵いませんが、本校らしい学園祭ができたのではないのでしょうか。そしてわずかも、生徒一人一人が自分の枠を越え、一歩を踏み出す機会になったのなら、と思います。

隔年度行っているフェスティバルは、今年度お休みです。学園劇へ向け学校全体が動き始めようとする中、1年生からは「来年のフェスティバルは……」という声も聞こえています。来年9月、また新たなことに挑む生徒の姿と久しぶりの母校を見に、同窓生の皆様も、ぜひお越し下さい。お待ちしております。



「コルベアワー」(奉仕活動)を終えて

平成30年12月「コルベアワー」を行いました。聖コルベ神父のお名前を冠したこの活動も、夏は「平和学習」、冬は「奉仕活動」として定着しています。同窓生の皆様の中にも、寒いなか窓ふきをしたことを思い出される方も多いと思います。

今回は小長井町の「みさかえの園第二めぐみの家」と「むつみの家」を訪問し、奉仕活動を行いました。玄関ホールや居室の窓ふき、ベランダ掃除



など、普段の学校の掃除よりも念入りに行っていました。やはり「ありがとう」「お疲れ様」と声をかけてくださる施設職員や利用者の方と接することは、それまでの自分を見つめなおす貴重な体験となったと思います。

今回訪問できなかった施設の方からも「来年はぜひきてほしい」とのお声をいただきました。また、各施設に手作りのクリスマスカードをお贈りしましたが、これまで先輩方が贈られたカードも全て飾っていただいております。同窓生の先輩方から、聖母の騎士の精神と伝統を受け継ぐということも、今回の奉仕活動で生徒が学んだことであったと思います。

新しく赴任される

岡田先生、 酒井先生の ごあいさつ



令和元年度に本校に新しく2人の先生が来られましたので、紹介します。なお、本校で20年間勤務し本校の発展に尽力していただいた飯田先生は、本人の念願であった小学校の教員を目指すため、今年3月で退職し、現在は長崎市西浦上小学校で臨時的任用教員として、低学年の児童と楽しくグラウンドを駆け回っているとのことでした。今後の活躍をお祈りしております。頑張ってください。

岡田裕輔先生



今年度より本校に赴任いたしました、保健体育科の岡田裕輔(おかだゆうすけ)と申します。体を動かすことが好きで、部活動で生徒ともにバドミントンをしたり、社会体育のソフトボールチームに所属し、気持ちよく汗

を流しています。そして何より、家族や友人、生徒との繋がりが私の原動力となっております。

本校に赴任する以前は中学校に勤めておりました。現在は、まだ中学生のようなあどけない1年生の担任をしております。不慣れな校種ということもあり、先生方にご迷惑をお掛けする日々ですが、とにかく生徒の力になりたいという一心で、今後とも職務に従事していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

酒井悠帆先生



今年度より本校に赴任いたしました、酒井悠帆と申します。担当教科は数学で、2年生の担任をやらせていただいています。去年までは、島根大学大学院に学生として在籍しておりました。

教職に就くのも職に就くのも初めてのことで右も左もわからない状態ですが、精一杯頑張っております。至らぬ点もあるかと存じますが、ご指導のほどよろしくお願申し上げます。

各地区からの お便り



「関東支部便り」

「仲間との絆」を 伝える

関東支部(昭和55年高校卒) 阿部正人

熊川先生、1981年3月卒業の阿部正人です。教育実習(国語・御担当・橋里征武先生)の時に目にかかりましたが覚えていらっしゃいますでしょうか。私は大変深く覚えております(苦笑)。

突然ではございますが、去る10月20、21日に、市川カトリック教会共同



墓地と、上野・浅草での故・米林拓道君(2017年1月24日帰天)の墓参り、及びクラス会での写真を送らせて頂きます。当日は奥様の幸子さまも最後まで同席して頂き、拓道君を偲びつつ大いに飲み、また語り合えた2日間となり、50代後半となってしまう私たちの変わらぬ友情の交歓をすることが出来ました。

私たちの学年の卒業生は21名。ワールドカップが行われる年にクラス会を開くのが決まりです。長崎、福岡とふたつの場所をこれまで繰り返し行いましたが、今年は、浅草出身の米林君の墓参を目的に、初めての東京での開催となりました。

聖母の騎士で過ごした日々は、3年間、6年間、それから寮生、通学生と様々ですが、一度しかない人生の、戻る事も出来ない貴重な少年時代の日々であり、また忘れることは決してできない時です。卒業後は、それぞれには

色んな過去があり、そして色んな今があります。でも、それぞれの点が、絆という一本の線で仲間がずっと繋がっています。そして、この絆は、これからもずっと続いていくでしょう。

「関東支部便り」

ふるさとでの伝馬船

関東支部事務局 徳永義雄

聖母の騎士学園入学前の記憶をたどりながら書いています。60年以上の前の事です。

故郷の移動手段は伝馬船です。

『男はつらいよ』の寅さんの映画にでてくる江戸川のある櫓でこぐ渡し船の伝馬船です。

私の故郷は長崎県平戸市の市街地から一日に数本しかないバスにのり、バス停をおりてから1時間半近く歩いて行かないとたどり着けないへんぴな田舎でした。車はもちろん自転車も走れない獣道のようなひどい道でした。

そこで移動手段が伝馬船です。住まいの下は入り江の湾になっていて、そこから一番近い町が薄香という町です。

高倉健の遺作となった映画『あなたへの舞台が薄香でした。田中裕子演じる妻洋子の生まれ故郷が平戸市の漁港薄香です。妻洋子は故郷の海に散骨

してほしいと遺言を残しました。

その薄香は田舎で生活をしていくにはとても便利な町でした。伝馬船に左右バランスをとりながら薪や米を積みどちらかに傾いたら海水が入るのではないかと心配しながら父や兄の櫓でこぐ姿を頼もしく見ていたものです。そしてそれを売ったお金で電気の代わりのカンテラの灯油や醤油やそのほかの調味料を買っていました。

一昨年秋久しぶりに薄香を尋ねました。馬蹄形の小さな港には小さな釣り船がお行儀よくつながら静かです。私の小さいころの方が活気があり、子供も多く元気な声飛び交っていたような気がします。一番印象に残っていたのが精米所でした。布製のベルトが勢いよく回って精米していました。たぶんこの辺ではないかとあたりをつけ近所の方に聞いてみると以前建っていた建物はすでに取り壊され更地になっていました。浦島太郎の心境でしょうか。そういうへんぴな田舎でも海に近かったので楽しい事もありました。

麦の初夏、稲の秋、サツマイモの初冬は収穫を終え、家族そろって伝馬船でアラカブ(九州以外はカサゴ)やクサビ(長崎以外はベラ)などを釣りに、アラカブは煮付け、クサビはしえぎりで貧しい中でも新鮮な食卓でした。

夕日が真向かいの島生月島に隠れると間もなく島の電灯の明かりがまたた



生月島からふるさとをみる。手前の島が中江ノ島



薄香港(上・下)



くところは我が家では灯油のカンテラに火がともっていました。あるとき絵書きの宿題を昼間書けばいいのに夜カンテラの灯りで書いていたら黄色で書いた絵が白か黄色はわからなくなり大変な思いをしたのを覚えています。そんな生活も不便さは感じませんでした。夕の祈りは暗闇の中でも毎日寝る前にはしていました。小学校に上がる前だと思のですが夕の祈りをしないで寝てしまいました。起きられてから入られ家の前のだいたい木に逆さつりにされた事を昨日のように思い出されます。厳しい母でした。特に教会ごとに関しては。いくらか聖母の騎士時代に生きていたかもしれせん。伝馬船では薄香への思い出、釣りのため、前の生月島の手前にある中江ノ島にも渡りました。

月島のほぼ中間にある長さ約400メートル、幅50メートルの小さな無人島で禁教時代には平戸藩によって棄教しないキリシタンを処刑した島としての記録も残っており潜伏キリシタンにとっては殉教地として「サンジュワン様」などと呼び、聖地として日頃から信仰していた島です。

船釣りを終え伝馬船で櫓をこいで近づくとき波の静かな中ひんやりとしたおごそかな空気を感じました。島に上がり岩の隙間に茅の葉を差し込み岩の間からしみ出る水を聖水として持ち帰ったものでした。

昨年は6月『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』として世界遺産にこの中江ノ島も登録され、殉教者の血によって清められた我が故郷を誇りとし、生涯の記憶にとどめていきたいものです。

北海道便り
**朋遠方より来る有り、
 また楽しからずや**

北海道帯広在住 松崎勝己

皆様、初めまして。松崎と申します。少し自己紹介をさせて下さい。私は聖母の騎士高校を昭和52年に卒業しました。同級生には、今東京赤羽教会主任司祭の永尾神父様がおります。

私は卒業後、北海道の帯広畜産大学に進学致しました。この遠い土地に行くことになったのは、同じく同級生の大浦君の誘いでした。当時、地元の長崎で進学を希望していたのですが、ペトロがイエス様の言葉に素直に従ったように、彼の言葉に共感し進学を帯広畜産大学に変更致しました。両親には相談しなかつた事を今になって反省しております。二人は同じ学生寮で青春を謳歌し、地元の教会のイタリア神父に怒られながら、薄い信仰をお互いに支えながら教会に通っていました。



左側が松崎、右側が大浦君

卒業後、私は地元に残り農協へ就職致しました。彼はヨーロッパ各国で働き、日本政府の最後の移民政策でブラジルへ行き、現在、ランの花農園を経営しております。15年前、農協を退職した折、南米、ブラジルを旅し、彼の所へ行き、奥さん、子供達(学とブルーノ)に会いました。当時、小さな子供でした。

15年の月日を経て昨年の冬、帯広で家族全員の再開となりました。わずか3日間の滞在でしたが、子供達は初めて日本で、そして厳寒の北海道を経験しました。ソリに乗ったりして遊びました。寒さが一生の思い出になったようです。私も友との再会は嬉しかったです。

現在、私は家内、息子と小さな会社を経営しております。しばらく退職できないですが、もう一度ブラジルに行き、彼と再会したいと思っています。

卒業後、私は地元に残り農協へ就職致しました。彼はヨーロッパ各国で働き、日本政府の最後の移民政策でブラジルへ行き、現在、ランの花農園を経営しております。15年前、農協を退職した折、南米、ブラジルを旅し、彼の所へ行き、奥さん、子供達(学とブルーノ)に会いました。当時、小さな子供でした。

15年の月日を経て昨年の冬、帯広で家族全員の再開となりました。わずか3日間の滞在でしたが、子供達は初めて日本で、そして厳寒の北海道を経験しました。ソリに乗ったりして遊びました。寒さが一生の思い出になったようです。私も友との再会は嬉しかったです。

現在、私は家内、息子と小さな会社を経営しております。しばらく退職できないですが、もう一度ブラジルに行き、彼と再会したいと思っています。

これまで、たくさんの方々にお世話になりました。紙面をお借りして、稲佐教会で一緒に過ごして聖母の騎士に進学を誘って頂きました熊川先輩有難うございました。又、関東の同窓会にお誘い下さいました徳永さん、私の叔父さんにあたりますが、有難うございました。未だ再会してない皆様、ぜひ近くへお越しの折には連絡下さい。お会いしましょう。

奄美支部の活動を伝える



聖母の騎士学園で聖コルベの精神を学び、立場を超えてお互い協力して神の呼びかけに応える、奄美大島チームの活動を報告します 2019



侍者 山田明 内野神父



奉仕作業 近藤芳弥



祭具磨き 山田明



奉仕作業 池田尚志



赤木名教会 内野神父



喜界島教会 内野神父



入院治療を続ける
道向神父



高圧洗浄作業 平国光
西仲勝教会ミサ 田端神父



侍者 丸田宗八郎



オルガン奉仕 安田孝春



聖書朗読
山田明



侍者 山田明 笠利教会ミサ

大笠利教会ミサ 内野神父

祭具磨き作業

近藤芳弥 山田明 山間教会で草刈り作業



「奄美支部便り」 教会のオルガン係を 通して伝える

奄美支部 安田孝春

今年の5月の大型連休は大忙しでありました。

連休の初めは、聖母の騎士学園の同級生である有馬昌樹君と共に、サレジオ会の浦田慎二郎神父さんの奄美巡礼団下見隊（4月25日～30日）の手伝いと見送りを済ませました。

今回、巡礼の下見で周った龍郷地区の巡回教会は、高校生の頃サムエル深堀神父さんに連れられて、クリスマスミサのオルガン伴奏をして回り、色々な方とお会い出来た懐かしい教会ばかりでした。「いつもと違って荘厳で、



とても良かった！」と喜ばれた思い出があります。

それから3日後5月3日の早朝、私は加計呂麻島の伊子茂に到着しました。もう40年以上も毎年無人島のハンミヤ島でキャンプを続けている東京教区の晴佐久昌英神父さんのメンバーの結婚式があるという事で、そのオルガンを弾く為に呼ばれたのです。そして晴佐久神父と旧知であるからお祝いに駆け付けるといふ田端孝之神父さんと共に馳せ参じたのでした。

式は浜辺の祭壇で待つ韓国衣装の新郎のもとへ、綺麗な韓国衣装の新婚が沖から小舟で乗り付け、砂浜を歩いて向かう場面からウエディングマーチが始まるという映画で見るとようなシーンのものでした。式中も仲間達の思いが随所に込められた暖かい演出の素晴らしいミサに与る事が出来ました。

でも実はオルガンが無人島仕様のストップが7つも有る足踏み式で、空気をかなり必要とするものなのに、風袋が半分以上破れており、リハーサルが終わる頃には足が痙攣する程に踏み続けなければなりません。でも本番迄の一寸した時間で、晴佐久神父自身に「私と一心同体」とまで言わせたリーダーの岩瀬聡さんが、身近に在るものだけで完全に修理して下さいました。

足はかなり攣りましたが、何とか式

を済ませ、韓国出身の新婚と日本人の新郎との若い二人とも出会う事が出来ました。

また、高校生時代のあるクリスマスの日でしたが、ヤノ神父さんから「慰問に行きますのでクリスマス曲の準備をしてください。」と言われ、連れて行かれたのが大村刑務所でした。係の方に案内され通されたのは、真ん中にポツンと足踏みオルガンが置いてある舞台の袖で、その講堂らしき客席には同じ色の作業服を着た大勢の人数が、周りを多くの刑務官らしき人々に囲まれて座っていました。学生服姿の私はぺこりと一礼をして、神父さんの指示通りに讃美歌を歌いクリスマス曲のオルガン曲を弾いて時間を過ごし役目を果たしました。代表の方が立たれ「とても心が洗われ良い時間が過ごせました。」というような御礼の言葉も頂きました。

又ある時、聖心教会の主任司祭だつたゼローム神父さんが『バッハ・グノーのアベマリア』の伴奏譜を持って来られ、これを明日のミサの時弾く様にと、歌い手のフィリピン人の男性を紹介されました。その方は翌日、感動する程の歌声を聴かせてくれました。後でフィリピンではとても有名な歌手だと聞かされました。

そもそもオルガンに係わる様になつたのは、私が鹿児島島の甲南中学校から

聖母の騎士中学校の二年生に転入学し暇を持て余す様になった頃、池田健二先輩から「教えるからオルガンを弾け！」と命令された事によります。私も「うん、わかった！」と素直に応じ、教わりながら練習を始めました。それから数年後、奄美に赴任して来られたミカエル松下神父さんにも色々とお教わりしました。





でも大学生になって軽音楽部に入ってから50年近く教会オルガンとは縁がありませんでした。その間、心残な事もありました。当時マリア教会の主任司祭だったゼローム神父さんが、「今度私のポケットマネーで新しいオルガンを買うつもりです。皆に教会音楽の素晴らしさを伝えたいのです。これからは孝春が弾くようにして下さい。」と言って、新しい電子オルガンを購入してくれました。でも、いろんな事情が重なってしまい、それを弾く機会は一度もありませんでした。私を買ってくれたと言うより、教会から少し遠のきがちだったのを呼び戻したかったのかも知れません。未だに

申し訳無かったと後悔しています。

4、5年前から、50年ぶりに教会でオルガンを弾く様になったのは、先輩の久保芳一神父さんから「君はオルガンを弾けたよな？」と思いい出されて指名される様になったからです。

西仲勝教会、小湊教会、山間教会、時に葬儀の古仁屋教会、そしてクリスマス、の喜界島教会という風に連れられて新しい出会いがあり、皆様の祈りのお伴が出来て恵み多い日々が過ぎていきます。また、マリア教会の正オルガニストの方が、事情があり留守にしているその間シスター方とのローテーションに加えて頂いています。

私に今日が有りますのも、諸先輩方や関わって下さった皆様のお陰だと感謝しております。

奄美支部便り 教会の役員として 伝える

笠利小教区赤木名教会
信徒会長 丸田宗八郎

みなさんお元気でしょうか。セミナーを卒業して数十年が経ちますが、私は学校を忘れたことはありません。申し遅れましたが、今回文を依頼された奄美の「丸田」と申します。

奄美は本島一円にたくさんさんの教会があり、その中でも我が奄美市笠利町に



は7つの教会がありますが、現在巡回教会としてミサが行われている教会は4教会だけです。昔、奄美の教会は宣教師の神父たちによって建てられ、教会の土地は信者さんらの提供でした。

現在、笠利小教区の主任司祭は内野神父で歳も若く、教会のあり方を改革しようとして奮闘している改革者です。説教は非常にうまく、わかりやすいし心に沁みます。私もその言葉のおかげで何度も救われた気がします。だからかな、私が教会から離れないのは？

教会において今現在小教区で侍者をしている子供は、多分私の子供一人しかいないと思います。今回私が侍者を



しているのは子供のピンチヒッターです。カトリックの教えは「愛」が絶対であり愛以上のものはないでしょう。これからの教会のあり方について考えてみたいものです。私も教会のためがんばっていきます。

奄美は格安航空（LCC）が就航して以来観光客のきなみ増えておりますが、来年の世界自然遺産登録を控え、登録されるとんでもない事態に陥るのでは？観光客が増え奄美にお金がおちることはうれしいことですが、…、以上のように取り留めのない文ではございましたが、奄美からの報告といたします。

フランキッズ・サマーキャンプ 2018 奄美大島から 伝える



夕食前の交流



左から
金神父
李神父

STAFF



キャンプ長の先唱で食前の祈り



Br 高原

Br 松尾



焼肉ができるまで待機



カヌー探検の前にしっかり食べます



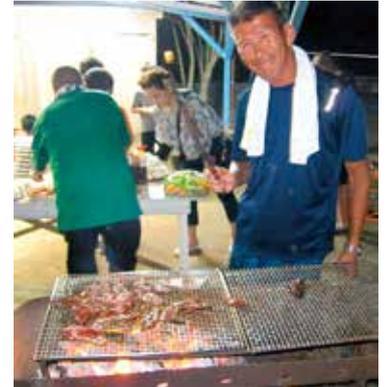
これ美味しいです



神様の勉強 その1



赤尾木教会で記念撮影 楽しかった～!



沢山ありますヨ!



癒しの乾杯



不思議な工作
奄美修道院のルルドで記念撮影



カヌーでマングローブ探検



奄美の海最高!

神様の勉強 その2

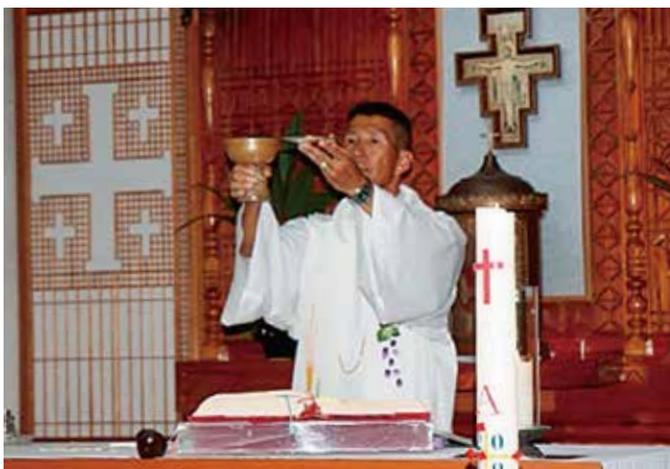


暑さと戦いながら



「奄美支部便り」 「コミュニケーション」 を通して伝える

奄美支部 田端孝之神父



1999年頃だったでしょうか、語学研修でアメリカ・ロサンゼルス修道院にお世話になっていた頃、誰かの会話の中で、アメリカ人が日本の若者に「あなたにとって神とは何ですか。」問いかけたところ、ある青年が「私にとって神とは『お金』です。」と答えた……、という笑い話を聞きました。

神の存在など興味のない日本の若者が、そのような答えをすることに私

もさして驚きませんでした。その会話の無意味さも同時に感じ、「質問したアメリカ人は大層がっかりしたろうな。そして日本人の精神の薄っぺらさも感じただろうな。」と思ったものです。なぜなら「武士道」を始め、「禅」などの精神世界に只ならぬ魅力と畏敬の念を抱いている外国人は、当然日本人の基本として深い精神性を培っていると思っっている訳です。だから自分たちとは違う、深い「何か」を日本人の中に期待していたはずなのです。

国際社会で語学力はとても大切なツールであり、多国語を話せることは非常に重要で、そこから得られるものは計り知れません。しかし、自国語以外の言語を操ることとコミュニケーションはイコールではないと思うのです。音声として発せられる言語は、只それだけでは手段でしかなく、皆さんがスマホの音声機能で様々な検索をするのと同じで、意思(心)を伴わない会話は、音声信号のやり取りに過ぎません。そんな無意味は会話をするために、皆さん外国語を習得するのでしょうか。言葉と心が通い合ったときの体験を皆さんも持ちましょう。それがコミュニケーションなのです。「伝える」ということも伝える側に明確な意思がなければ、只の行為になってしまいます。教会でも人が集ま



に足が付いていないと言われても仕方ないでしょう。まず、身近な人とのコミュニケーション、つまり心の交流を大切にしたいものです。そこでは特別な言葉を語る必要はなく例えば朝の挨拶など、小さく単純な言葉の中に精一杯の気持ちを含めることで十分なのではないでしょうか。相手への信頼が生まれれば、コミュニケーション(心の交流)は当たり前のように円滑に進み、その先に「伝え合い、支え合う」人のつながりが深化できるはず。そこに神の祝福と導きがないはずがありません。さあ、始めましょう。

「奄美支部便り」 教会の奉仕活動を 通して伝える

奄美支部 池田尚志

平成の時代が終わわり、5月1日より新しい元号が令和となりましたが、それぞれの思いはどうだったのでしょうか。

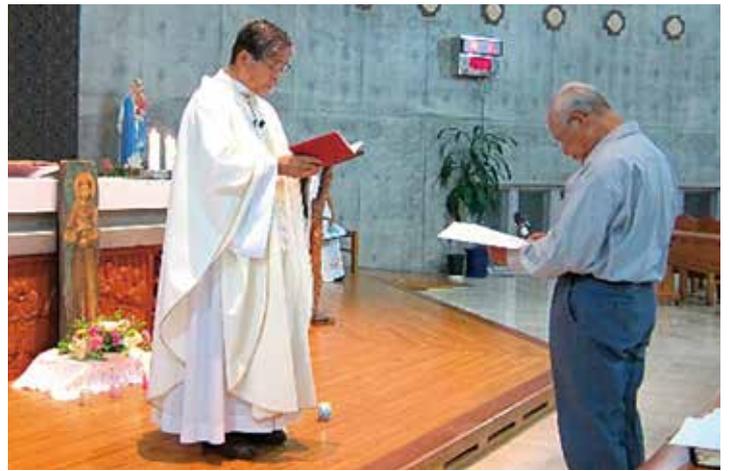
私も昭和、平成と生活してきて今年で72才になりました。65歳の時、奄美市の平田浄水場で夜間警備の仕事で退職してから、母と叔父の二人の介護を自宅ですてきましたが、2年前に母は91才で帰天し、今は叔父の介護を続け

ながら、時間をみつつけて油彩画や水彩画を描いています。

早朝の時間は余裕があるので、毎朝6時半の聖心教会のミサにあずかっています。このミサにおいては先唱、聖書朗読、侍者とそれぞれの係をミサにあずかるメンバーで当番制の形にしています。

今の時代、少子高齢化の流れは社会的な問題になっています。当然ながら、教会のなかでも、その流れはいろんな影響を及ぼしています。

聖心教会の信者の多くの方の年齢が70代から80代へと移り、20代から60代の信者が特に少ない状況です。教会のいろんな行事が今後、その存続をどの



ようにしていいたら良いか、検討をせまられていたのではないのでしょうか。例えば、教会の日曜日のミサにおいては、子供の数が少ないために、私と押川くんの二人で侍者をしている状態です。子供達を中心とした侍者のあり方に変えたいと思っても、現実にはミサにあずかる子供が少ないため、簡単に解決できる問題ではありません。

会員としての入会式を、2年前にさせて頂きました。こちらの会の活動においても、高齢化が進み、新しく会員になる信者も減少しており、将来的に会の存続が困難になることは、容易に予想が出来ます。しかしながら、現在の状況を嘆いてばかりでは何も先に進みません。どうしたら良いかを他人事とするのではなく、自分自身の問題として、いかに係わるべきかをそれぞれの立場で真剣に考えるべきと考えます。次に繋げるために、何をするべきか、どのように行動に移すのかを私達は今、お互いに問われているのではないのでしょうか。

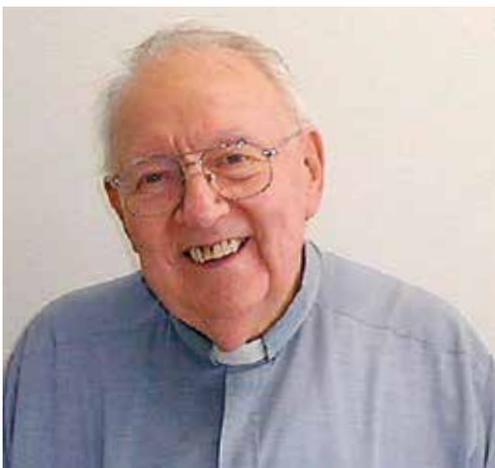
「奄美支部便り」 不思議な出来事を 通して伝える

奄美支部 田下三佐男

「ワタシは、ゼローム神父さんに命を助けてもらいました」

これは、20年近く前になるが、私が最初のがん手術で入院していた当時、市内の別の病院に脳腫瘍の手術のため入院されていた、フィリピン出身の女性患者さんが、奄美大島で体験した出来事である。

今年6月初め、大雨続きでフライトスケジュールが大きく変更する奄美空港から、飛行機で喜界島教会に出かけた。かつて、ゼローム神父からその事の一部始終を聞かされており気にかかっていたが、ようやくメルセーデス



さん本人にお会いして、日曜日ミサの後教会で直接お話を聞くことが出来た。

この方は当初、お産のために、喜界島から漁船で奄美大島本島の病院に緊急搬送され、帝王切開術で元気な男の子が無事に生まれた。その後、目が見えないと訴える症状が出たので、病院で詳しく検査したところ脳腫瘍が見つかり、さらに難しい手術が必要なのも分かった。

定期的に病院訪問を続けておられたゼローム神父と出会い、大きな励ましを受けたと涙ながらに話す本人の真剣さに、思わずこちらも涙ぐんだほどである。本人の中でなにか強烈な事が起こったのが十分に理解できた。

開頭手術の日が決まり、その事を知らされたゼローム神父は、手術日の前晚に呼び掛けて教会に集まった信者さんに、「明日、徳洲会名瀬病院で命に係わる手術を受ける方がいます、そのために今夜は特別にお祈りしましょう」と説明して祈りを始められた。

その夜、病院の執刀医は不思議な夢を見てうなされていた。手術室に入り、CT、MRI、レントゲン等の確認をするなか、最後の一枚の写真からこれまで写っていたはずの腫瘍の影が消えている。翌日、病院に行き準備の整った手術室に入るも、昨夜の夢がとても気に掛かり、「念のために、

もう一度写真を撮りたい」と検査室で写真を撮り直し、出来上がった写真を見て驚愕した。【昨夜見た夢の通りになっている】そこで、「腫瘍が無くなっていてるので、もう手術の必要はありません」と宣言し、手術は中止された。

話は前後するが、手術室に運ばれたメルセーデスさん、麻酔が全身に行きわたるころ深い眠りに入った。ふと前を見ると人々の行列が出来ている。どうやら天国のようだ。順番が来て、門の入口に立つ係に名前を聞かれたので、しっかりと名前を伝えた。係の人は、なんども台帳を調べて、「アナタの名前は、まだ登録されていないので、ここから入れません。すぐに戻りなさい!」と言われた。仕方なく振り返って、しばらく歩き始めたところで目が覚めた。そこは手術室とは別の部屋でした。いろんな機械が沢山ありました。病院の先生や看護婦さんの顔がはつきりと分かりました。【目が見え



るようになっていた」「トツテモ、嬉しかったです!」

ワタシは日本語よりも英語が得意ですと話すメルセーデスさん、なんども病院を訪問されたゼローム神父と不思議な出来事について英語で語り合い、心から沢山のお礼を申し上げたと話した。

その後、病院を転動されたイタガキ先生にも沢山お世話になったから、是非お会いしてお礼を言いたいとも。教会に残ってこの話を聞いていた他の信者さんたちも、「ホントに良かったね、メルセーデス!」と、この不思議な出来事を共に分かち合った。そして生まれた男の子は、もうすぐ20才になるのと笑顔で話すメルセーデスさん、折角戴いた命を大切に毎日神様に感謝して、困った人の為に頑張りたいと明るく希望を語ってくれた。

「ワタシは、ゼローム神父さんに命を助けてもらったのヨ!」何度も大粒の涙を流しながら、繰り返し喜びを伝えてくれた。そこに居合わせた信者さんも、自分の事の

ように喜び、一緒に嬉し涙を流した。

自宅に戻った私は、「ゼローム神父さんは、いつもそばに居て下さるからネ!」と添え書きをして、特製の写真を送って差し上げた。後日、お礼の電話が来たが、しばらく大泣きして声にならない。最後に、「怖いものはありません、大丈夫デス!」と話してくれました。

お元気でね、ありがとうメルシー!
『ゼローム神父の奇跡』



葬儀ミサを伝える

2019年1月11日



私たちコンベンツアル会の兄弟、内野神父さまのお父様が帰天されました。兄弟の父親は、修道会のお父さんでもあります。私ども父の葬儀ミサを捧げるために修道会を代表してこの祭壇にやってきました。祈りましょう！ 日本管区長 竹内昭彦 神父



我々なら歌えるラテン語の聖歌を、オルガンも他には任せられない、目指しているもの、心はひとつ。ここは聖母の騎士たちが・・・



つらい事は多かったが恵あふれる笑顔のおやじ



男の子ばかり六名の最後に司祭が誕生した。ご両親は、賛美と感謝を主に祈り続けた。

コンベンツアル修道会奄美大島宣教開始50年記念聖堂マリア教会



Fr 田端 Fr 金 Bp 押川 Fr 内野 Fr 松永 Fr 竹内 OFMConv.



イギリス便り 海外から現状を伝える

奄美支部 励倫太郎

同窓会の皆様、お久しぶりです。皆様いかがお過ごしでしょうか？日本ではもうそろそろ、蒸し暑い夏の季節が始まったのではないのでしょうか？

こちらでは春が過ぎ、やっとカレンダー上では夏の季節になっているのですが、未だに気温が上がらず少し肌寒い日が続いています。最近は、天気にもあまり恵まれずに強い風や雨がほとんどで、会話の始まりは、(英人特有の)天気の文句から始まっています。その他にも、日本で開催されるラクビーのワールドカップの事や、最近同僚の人たちからは、日本の季節や気候をよく質問される機会が増えてきました。その他に、天皇陛下の譲位は、英国でも報道され、同僚からは日本の元号について聞かれ、日本に関してちょっと勉強する機会にもなりました。

職場では、今年から患者さんたちと一緒に、色々な野菜、料理で使われる香草や花を植えて、それを病院内で売って資金を集めようと、これまでと少し違う事を始めました。しかし、この天候の所為で、トマトやピー



マンなどはあまり良く育っていません。それでも、患者さん達の中には、外に出て草刈りや種を植えたりすることで気分転換が出来るかと、参加してくれている方には好評の様です。私が子供の頃、あれだけ嫌だった畑仕事、今ではもう楽しくて仕方ありません。

近年延々と英国の課題となっているEUからの英国離脱は、あまりにも長く続いているので、少し興味も薄れてきました。職場では、最近はまだど英国離脱の会話は聞かなくなりました。今年4月の復活祭の休日に、やっと久ぶりに日本に帰ることができました。残念ながら、私の家族全員ではなく私だけでしたが、その代わりに日本で色々な場所を訪ねることが出来ました。特に嬉しかったのは、長崎に寄れたことでした。久し振りに同級生の仲間達に会えて、懐かしい学校を訪れ、お世話になった学校の先生方に会える機会があったことでした。特に同級生の大井君と古瀬君には、稲佐山や26聖人記念公園などに車で連

れて行ってくださり、お世話になりました。夜には小さな同窓会を開いて頂き、忙しい平日の中、集まってくれた友達には感謝しました。中には、卒業以来会っていなかった友達にも会えました。懐かしい話や色んな話をしていると、私が中学生の時自分の知らないところで、ある先生が自分の事を心配して、他の生徒達に私が大丈夫だろうかなど聞いたり、気を遣って頂いていたことを知ったり、自分の知らないところでお世話になったり、支えられていたことを知りました。

実家では、全く変わらない風景を楽

しんだり、家をDIYで修理したり、地元の友達と久しぶりに会ったりすることが出来ました。数日でしたがとても満喫できました。

今年のラクビーワールドカップでは、日本だけでなくウェールズの応援も宜しくお願いします。特に、ウェールズ人達は自分たちの国歌をとて誇りにしています。私自身も、とても素晴らしいと思いますので、ぜひ機会があれば聴いてください。

同窓生の皆様、夏風邪を引かせないように、お体にはお気を付けて下さい。それでは失礼いたします。

沖繩便り

学生時代の思い出と近況

沖繩市在住(昭和63年卒) 仲地克彦

聖母の騎士学園を卒業してから、早いもので31年。卒業してすぐに東京へ行き、暫くして長崎へ戻り就職。(株)西部ガスというガス会社へ約2年勤め、それから沖繩へ帰ることになりました。沖繩へ戻ってからすぐに県内のエネルギー(ガソリン、

ガス、重油)等を扱う会社(株式会社りゅうせき)へ入社。それから25年が過ぎようとしています。

学生生活を終えてからは時が過ぎ

るのかなり速いと感じます。学生の頃は一日一日がかなり遅く感じたものです。血気多感な時期に学生寮に入り規律や礼儀、挨拶、躰を学ばせてもらいました。当時は全く『学んでいる』という認識はなく、ただ窮屈な時間をただ過ごしていたという感覚だったのを今でも思い出せます。社会人になり、今の歳になってやっと10代で経験させていただいた事に感謝がこみ上げられます。それは今、私が20歳以上の後輩達にしつこく伝えている事だからです。

20歳を過ぎてから口頭で学ぶ事と10代の学生時代、身体で学んだ事の差は大きく感じています(笑)。沖繩に戻ってきてから、やはり寮生活を共に

生徒募集

■一般生

- ★1学年1クラスの少人数教育。
- ★学力が高い生徒のために進学コースを設置。実力をアップして上級学校への進学を目指します。

- 1 年生:「センター試験対策コース」
- 2・3年生:「国公立大学進学コース」

■校内特待生制度

- ★成績優秀な生徒には特待生制度により奨励金を支給しています。



■神学生(聖コルベ志願院 ☎095-828-0541)

- ★コンベンツアル聖フランシスコ修道会の司祭を目指します。祈りに親しむ生活を通して神様に会い、司祭になるための知識・教養を身につけます。
- ★高校卒業後は、まずは一般の大学に進学し、今の時代に必要とする学問を学んだ後に、上智大学神学部編入し、司祭になるための準備を続けます。
- ★神学生としての授業料・生活費は修道会が負担します。

オープンスクールの開催します。
10月12日 土曜日
 お気軽にご来校ください。

※学校見学会は以下の日程で行います。
9月7日、9月21日、11月16日、12月7日
 (全て土曜日です)

聖母の騎士高等学校

〒850-0012 長崎市本河内2-2-2 ☎095-823-4523
[ホームページhttp://www.seibonokishi-2008.jp/](http://www.seibonokishi-2008.jp/)



すごした同級生や先輩、後輩達に仕事やプライベートでも助けてもらいました。特に仕事面では勤務先で取り扱っている燃料(ガス、ガソリン)の取引先になってくれて、今でも引き続き取引をさせてもらっている本当にいい仲間です(永遠に繁盛する事を願うばかりです!)(笑)。

そして、学生時代から始めたバレーボールにも縁があり、今でも選手としてコートに立たせてもらっていて、全国マスターズ大会へも7年連続で沖縄県代表として参加させてもらっています。また、勤務先の役員がバレーボール経験者ということもあり、会社との取引先であるパナソニックのバレー



ボールチーム(Vリーグパナソニックパナサーズ)の沖縄合宿の企業窓口で私が担当となりました。学生時代、一生懸命打ち込んだバレーボールでこのような繋がりができるとは夢にも思っていませんでした。

10年前からは沖縄県バレーボール協会の理事になり、仕事の目を除いてはバレーボール競技の運営に奔走しているところです。限られた時間で色々なスケジュールこなすことは大変ですが、それでも今、充実した生活を過ごしています。

「長崎便り」

「ゲンキ」です

昭和25年卒 田川幸一

高校の第一回の卒業生です。同級生は8人。3人が生存。高来町(諫早市)湯江の老人ホーム『聖フランシスコ園』に暮らして、5年目になる。

今年、1月に急性肺炎で救急車で運ばれる。3月、91歳の誕生会でお祝い。4月、長崎のNBCテレビで10分間ほど放映。7月、高来中学校で200人の生徒に「平和学習」の語りべを務めた。まだ、まだ、元気です。



「長崎便り」

ロザリオ編みで頑張っています!

長崎・聖母の騎士修道院 松下昭征

昨年10月4日、夕刻の時間帯に、長崎のローカルテレビで「ロザリオ長崎編み」についての放送がありました。

私がロザリオを編んでいる姿が映し出されていて、その他にも教区司祭の解説や、シスターに編み方を教えている場面など十数分の放映でした。この長崎編みのルーツを探し出す番組で、はつきりしたことはわかりませんが、パリミッシヨンの宣教師が教えたのが始まりではなかったかというのが有力な手掛かりのようでした。

そもそも私がロザリオを編むようになったきっかけは、高校1年生のときからでした。クラス全員で修学旅行の費用を捻出するために習い始めたのでした(教えてくれたのは修道院の誰かかと思いませんが...)。ですから、私の同級生はペンチがあれば今でもロザリオを編めるのではないかと思います。



「長崎便り」

本校の恩師永井隆博士に思いを寄せて

第7回生 木場田友次

番組では「長崎編み」と呼んでいますが、私たちが習った当時は「聖母の騎士編み」と呼んでいたような気がします。また、先輩方や後輩の方々が、現在でも編み続けて活躍していることを聞くと頼もしく感じます。

せっかく取得した技術なので、視力と体力が続く限りみなさんの注文に応じていきたいと、これからも頑張ろうという気持ちを奮い立たせています。

長崎如己の会の理事を拝命して15年の節目の年に当たり、本校に残された永井隆博士の足跡について述べたいと思います。

原爆によってみどり夫人と自宅を失った永井隆博士が聖母の騎士修道院で仮住まいを始めたのは終戦の年の秋



ごろでした。仮住まいの詳細は判明しませんが、博士は肺を患っていたコルベ神父の主治医であったのが縁で仮住まいをされたと言われています。博士は修道院から通勤し、長崎医大で授業を行いました。その恩に報いるため休日になると、小神学生たちに理科を教えました。教え子の一人で、聖フランシスコ園で療養中の91歳の小崎登明・ブラザーのお話によると、教員不足の当時、博士は大変貴重な存在で重宝がられたとのことでした。

小神学生と出会った秋の運動会のプログラムの中に、聖フランシスコの五つの聖痕に印を付ける競技のために、博士は率先して等身大の聖フランシスコの絵を描いて切り抜き、バフン紙に張り付け競技に使用しました。この絵はコルベ館に大切に保存されています。

昭和46年1月28日、長崎医大の教授に昇格したが、同年7月長崎駅付近で倒れ、以後病床に伏した。一年足らずではありましたが、博士から受けた愛の精神は、小神学生を始め、多くの人に感銘を与えました。



令和元年度学年理事

杉山輝君。大学進学目指して奮闘中です！

同窓会奨学生

今年は採用3名、年間4万円の支給となりました。奨学金の予算は、年間6万円。最初の応募者は2名。どちらも切りがたい……。理事会で、「ならば2名とも採用しよう」と決まり、年間12万円。ところが、締め切り間近に、さらにもう1名の応募……。これも切りがたい。という事で、今年は3名を採用する事となりました。

ミニだより

懐かしい人たちの現況、楽しく拝読しています。学園便りもいいですね。

鎌倉市 平松壽護

いつもありがとうございます。

堺市 竹口良巳

聖母がご出現なさった日であったので本河内教会のごミサに来てみました。

長崎市 高見正明

「英彦の泉」は心に残るオアシスです。これからも続きますように。

埼玉県 齊藤 優

2017年10月、23年ぶりに同窓会に参加させて頂き、崎濱校長神父様は

じめ、同窓生の皆様と懐かしい思い出などを分かちあう事が出来ました。役員の皆様、ありがとうございます。

寝屋川市 萩原儀一

毎回楽しみにしています。頑張ってください。

池田市 磯辺浪男

会費以外は、聖コルベ志願院の神学生のために使ってください。

五島市 本村義則

事務局の皆様、いつもありがとうございます。

長崎市 赤本喜代次

皆さんと会える日が楽しみです。

長崎市 峰 徹

英彦、立派な出来栄え。読みごたえあり。トマの勲章も載せてくれてあり

がとう。沢山の人の名前があり、みんなの英彦の感じがよく出ていた。努力して頑張れ、キバレ。

諫早市 小崎登明

長い事、英彦の泉をお送り頂き有難うございました。夫(二次夫)は2015年6月に帰天いたしました。

主人の母校の様子が変わり、会報を送って頂く事をお断りしていませんでした。今後もお送りいただきたいです。会費でも寄付でもよろしいです。僅かですが送料としてお受け取り下さい。

松田喜代子

いつもありがとうございます。

諫早市 山内春治

紙面にて吉田先生のご退職を知りました。在学中受けた軍艦島の講義は一生忘れません。

英彦の泉を拝読しているうちに、何かしら力が湧いてきます。

鹿嶋市 田辺久義

9月5日。ことのほか今夏の暑かったこと。皆様もお変わりなくお過ごしのことと思います。この度の崎濱神父様の叙階50周年、おめでとうございます。また、小崎修道士さんのポラード勲章も、おめでとうございます。長い間働き続けて来られて色々苦勞もおありだった事と思います。まだまだこれからもお体に十分御気を付けら

平成30年度 決算報告書

摘要	収入	支出
繰越金	823,776	
年会費	261,000	
寄付	183,000	
同窓会入金	42,000	
雑収入	4,720	
懇親会会費余剰金	16,553	
卒業記念品代		10,920
「英彦の泉」印刷代		228,096
会報送料		78,224
奨学金		60,000
通信費		5,753
雑費(弔電)		3,210
御花代(葬儀)		15,000
如己の会入金依頼		3,000
合計	1,331,049	404,203
残高	926,846	

令和元年度 予算計画書

摘要	収入	支出
繰越金(通帳)	926,846	
年会費	250,000	
寄付	100,000	
同窓会入金	33,000	
学園援助金+花代		65,000
卒業記念品代		11,000
「英彦の泉」印刷代		240,000
会報送料		80,000
奨学金		60,000
通信費		6,000
予備費		30,000
合計	1,309,846	492,000
残高	817,846	

聖母の騎士学園同窓会 (本部役員名簿)			
会長	赤本喜代次		
副会長	窄口 富行	顧問	崎 濱 宏 美
	大石 諭		木場田友次
書記	小島 正人	会計監査	松下 昭 征
事務局	熊川 武 俊	会 計	赤 尾 城 司
理事	里脇岩男／竹内松雄／松本 修		
	滝元 敦／川村隆公／峰 徹		
	宮城 信愛		

れ、お働きくださいます様、心よりお祈り申し上げます。

この度の同窓会、残念ながら、夫、定五は参加する事が出来ません。これからも参加できることは無いと思われまます。今は病気療養中です。どうぞ、皆様もご自愛されますように。少しですが、何かのお役に立ててくださいませ。

福岡県 松尾恵子

▼人知を超える自然の猛威に、改めて人間の小ささを感じる今日この頃でございます。インフルエンザが猛威を振るっておりませんが、皆様様、お元気でいらっしやいますか。

さて、月日の経つのは早いもので、また受験シーズンがやって参りました。未来を切り開いてくれる若者たちが眩い事です。奨学金のお役に立てていただければと、心ばかり送らせて頂きます。聖母の騎士学園の発展と皆様

原稿募集してます!

●近況報告を兼ねて「英彦の泉」に投稿してみませんか。同窓生ならどなたでも構いません。思い出、雑感等々何でもテーマは自由。出来れば800文字程度にまとめて熊川へのメール、または、聖母の騎士学園へ送付してください。提出期限は毎年7月20日です。是非、ご協力ください。

●熊川メール：
toshi_dominic_kumagawa@yahoo.co.jp

のご健康をお祈りしつつ。

京都市 内藤 淳(代)

▼英彦の泉、ありがとうございます。いつも楽しみにしています。昨年の10月29日に、私と同級生だった小出又夫君が帰天いたしました。お祈りください。

博多区 白浜雪義

▼ご苦労様です。今年も英彦の泉、ありがとうございます。懐かしい便りです。

鹿嶋市 平松 弘

▼事務局の皆様お元気で。アーメン。

佐世保市 藤村大造

▼たぶん3年ほど滞りがあると思えますので少し多めに、遅くなりましたがよろしく願致します。いつも人生を振り返る原点です。「英彦の泉」は……。

東京都 川口雄三

▼(会費が)大変遅くなりましたすみません。

鹿児島県大島郡 森永勇作



編集後記

「英彦の泉 第23号」をお送りします。まずは訃報です。昨年10月1日、昭和57年から平成2年まで学校長として奉職されておりました大曾 昭神父様が帰天されました。在任中は、当時、唯一強かったバレーボール部や、ソフトボール部、サッカー部、そして剣道部、テニス部などのクラブ活動の活性化はもとより、生徒募集や、当時、私を含めた20代の若手教員の育成にも尽力を注がれていました。職員の見解をきちんと聞いてくださり、また夜の街にも連れ出してくださった親分肌の神父様でした。



ありし日の 大曾神父さま

樹修道士は、サッカーボールを懸命に追っていました。その後、ようやく体育館が作られ、バレー部はふた教室分の「体育室」から「体育館」へ。剣道部は屋上のコンクリート床との決別で、ようやく足裏の出血から解放されたのです。この体育館の建設には、勿論、大曾神父様の御尽力なくしては実現不可能だったの言うまでもありません。今更ながら、「感謝」です。

クラブ活動と言えば、当時の体育の授業、殆どバレーボールだったような……? 熱心に指導されていたのは田中先生。家族サービスを放棄して、土・日も休みなしで練習に付き合っていました。この方ほどバレーボールを愛した人を私は知りません。その影響でしょうか、社会人になっても、50歳になってもクラブチームでバレーを続けている卒業生も多いようです。しかしながら、時の流れと生徒数減の影響でしょうか。現在では、バドミントン部、デザイン部、そして古典(文学) 研究部の3クラブだけとなっています。残念ながら、日本で唯一の存在だったバグパイプ部は、部員数0と顧問の退職により消滅してしまいました。今年には2年に1度の学園劇の年でもクラブに参加していない生徒たちでも全校で取り組む行事。貴重な3年間の高校生活。一人一人が主役の気持ちで、「感動」を味わってほしいと思います。

(くまがわ)

そういうえば、当時のソフトボール部には大水恵一神父が所属し、あの狭いグラウンドを走り回り(転げまわり?)、剣道部だった平孝之神父は、校舎の屋上のコンクリートの床で素足のまま練習に励み、それから、松尾豊